

人的な 子育てサポート環境

酒井 厚

この章では、妊娠期から0歳児期にかけての夫婦が持つ人的な子育てサポートの実態について見ていきたい。子育てサポートがどのように変化するのか、またそうした変化が子育て意識にどのようにかわるのかについて、妻と夫の比較から報告する。

■子育ての相談相手

妊娠・出産に関して、相談したり話し合ったことがある人とその相談の頻度について、妻と夫に尋ねた。相談相手は図6-1～4に示した14対象である。

まず、妻の結果（図6-1、図6-2）を見てみると、相談を「いつもしている」割合が高いのは、妊娠期から0歳児期を通じて、「配偶者（妊娠期：80.5%、0歳児期：84.9%）」、「自分の親（妊娠期：36.0%、0歳児期：42.9%）」、「自分の友人・知人（妊娠期：23.9%、0歳児期：26.9%）」の順であった。妊娠期から0歳児期にかけて、相談の頻度に主だった減少が見られたのは、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師」と「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」であった。「いつもしている」と「時々している」の回答を合わせると、医師に関しては妊娠期が52.2%であったのが0歳児期では27.2%に、看護師・助産師では妊娠期が46.1%であったのが0歳児期では16.2%にそれぞれ減少していた。一方、「保健師」への相談は、「いつもしている（妊娠期：0.8%、0歳児期：1.9%）」と「時々している（妊娠期：3.8%、0歳児期：19.8%）」の回答がともに増加していた。0歳児期に医師や看護師・助産師への相談が減り、保健師への相談が多くなることから、妻は子育てに関して、その時々周囲にいる専門家を有効に利用していると言えそうである。また、妊娠期から0歳児期にかけては「子育てサークルの仲間」への相談頻度も多くなっており（「いつもしている」と「時々している」を合わせて妊娠期：19.8%、0歳児期：56.1%）、妻は積極的に子育ての情報を得ようと努力していることが言えるだろう。

次に、夫が相談をいつもしている割合が圧倒的に高いのは、妊娠期から0歳児期を通じて「配偶者（妊娠期：77.5%、0歳児期：75.8%）」であった。次に多かった「自分の親（妊娠期：5.8%、0歳児期：4.1%）」、「配偶者の親（妊娠期：4.1%、0歳児期：4.9%）」とは、かなり開きがあった。しかし、「いつもしている」と「時々している」の回答の両方に注目すると、「自分の親（妊娠期：52.5%、0歳児期：44.2%）」や「配偶者の親（妊娠期：37.1%、0歳児期：42.0%）」と「自分の友人・知人（妊娠期：44.5%、0歳児期：37.3%）」では相談頻度にそれほど差がなかった（図6-3、図6-4）。妻にとっても「自分の友人・知人」は相談することが多い相手（妊娠期：84.3%、0歳児期：85.7%）ではあるが、妻が自分の親を頼り、子育てサークルで相談

図6-1 子育てについて相談したり話し合ったりしたことがある人(妊娠期妻)

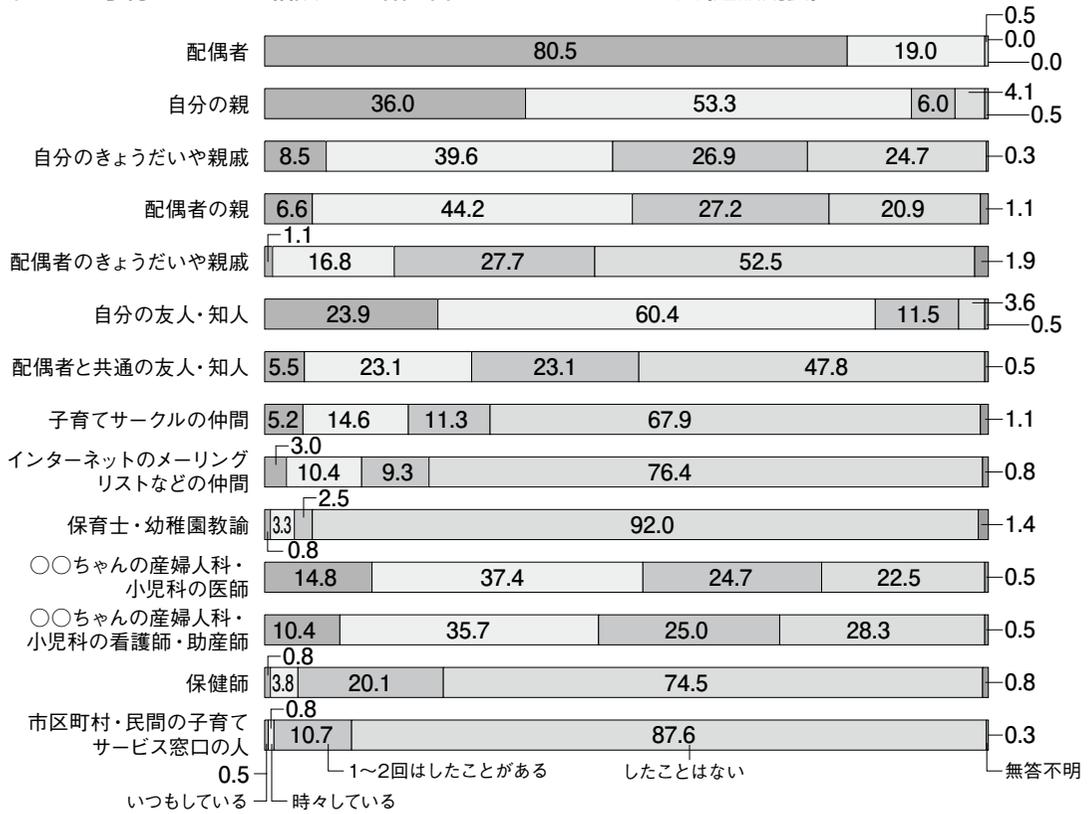
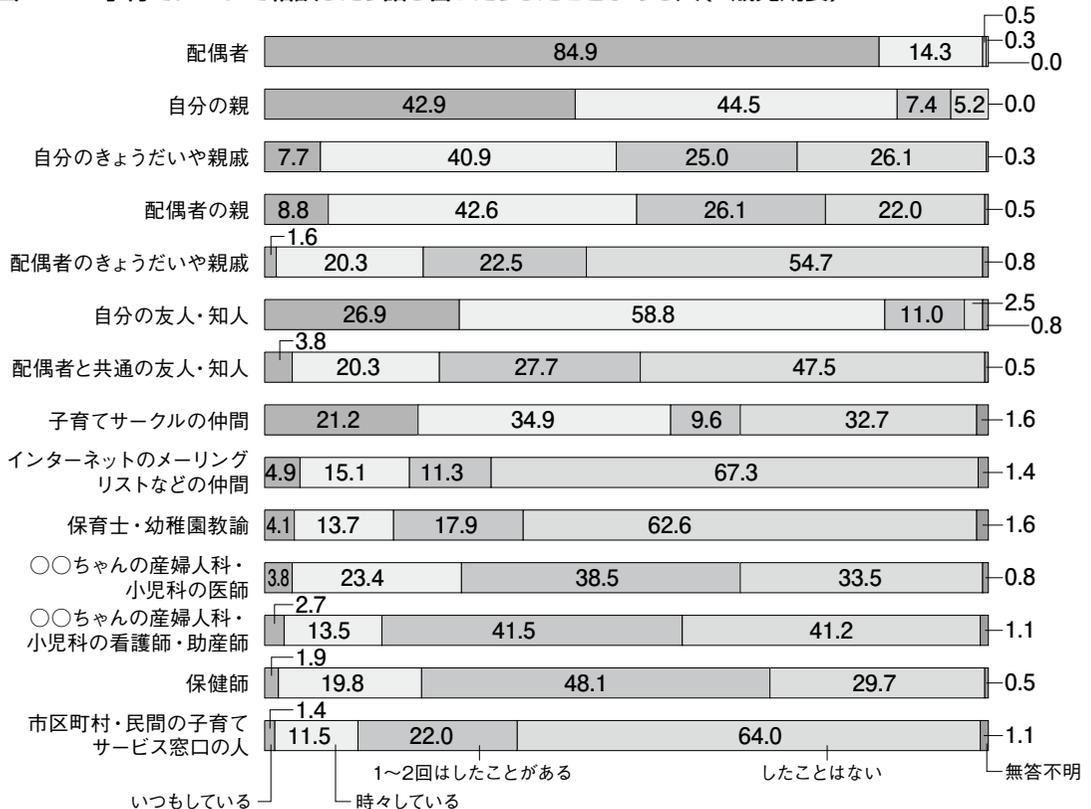


図6-2 子育てについて相談したり話し合ったりしたことがある人(0歳児期妻)



相手を見つかりたりするのは異なり、夫にとって友人・知人は貴重なサポート源であると思われる。

■妻の相談相手の有無と子育て意識

図6-5～8には、0歳児期の妻と夫それぞれについて、相談相手の有無と子育て意識との関係をまとめている。今回は、子育て意識として「子育てに自信がもてるようになった」と「親としてそれなりにうまくやれていると思う」の2つの質問を尋ねた。ともに、「あてはまる（5点）」～「あてはまらない（1点）」までの5件法で回答を依頼している。ここでは、「あてはまる（5点）」と「ややあてはまる（4点）」と答えた人を「あてはまる」、「あまりあてはまらない（2点）」と「あてはまらない（1点）」と答えた人を「あてはまらない」にまとめ、「どちらともいえない（3点）」を含めた3つのグループに回答者を分けた。

相談相手ごとに、子育てに関する相談を1回でもしたことがある人と1回もない人に分けて、子育て意識の得点を比較してみた。妻の結果（図6-5）を見てみると、「自分の友人・知人」に相談したことがある人のほうが、したことがない人に比べて、「子育てに自信がもてるようになった（したことがある：41.8%、したことはない：11.1%）」や「親としてそれなりにうまくやれていると思う（したことがある：63.3%、したことはない：33.3%）」にあてはまる人が多かった。ただし、相談したことがある人が352人に対して、相談したことがない人は9人ととても少なかったため、結果の解釈には注意が必要である。「自分の友人・知人」に続いては、「自分の親」に相談したことがある人がない人に比べて「子育てに自信がもてるようになった」にあてはまる人が多く（したことがある：41.7%、したことはない：31.6%）、「自分の兄弟や親戚」に相談したことがある人はない人に比べて「子育てに自信がもてるようになった」にあてはまる人が多かった（したことがある：43.7%、したことはない：34.7%）。また、「配偶者の親」に相談したことがある人はない人に比べて「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人が多かった（したことがある：66.0%、したことはない：51.2%）。さらに、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人が多かったのは、「配偶者の共通の友人・知人」に相談したことがある人であり（したことがある：68.8%、したことはない：56.1%）、「子育てサークルの仲間」に相談したことがある人であった（したことがある：67.4%、したことはない：54.6%）。こうした結果から、妻が子育てに対してや親としての自信を持てるようになるには、子育てについて相談できる親族や友人・知人の存在が大きいことがうかがえる。

■夫の相談相手の有無と子育て意識

妻と同様に、夫に関しても、各相談相手への子育てに関する相談を1回でもしたことがある人と1回もない人に分けて、子育て意識の得点を比較してみた。図6-6を見ると、どの相談相手についても、相談したことがある人のほうがない人に比べて、子育て意識が肯定的であることがわかる。特に、「子育てサークルの仲間」に相談したことがある人は、ない人に比べて「子育てに自信がもてるようになった」にあてはまる人が多く（したことがある：62.5%、したことはない：32.4%）、「インターネットのメーリングリストなどの仲間」に相談したことがある

図6-3 子育てについて相談したり話し合ったりしたことがある人(妊娠期夫)

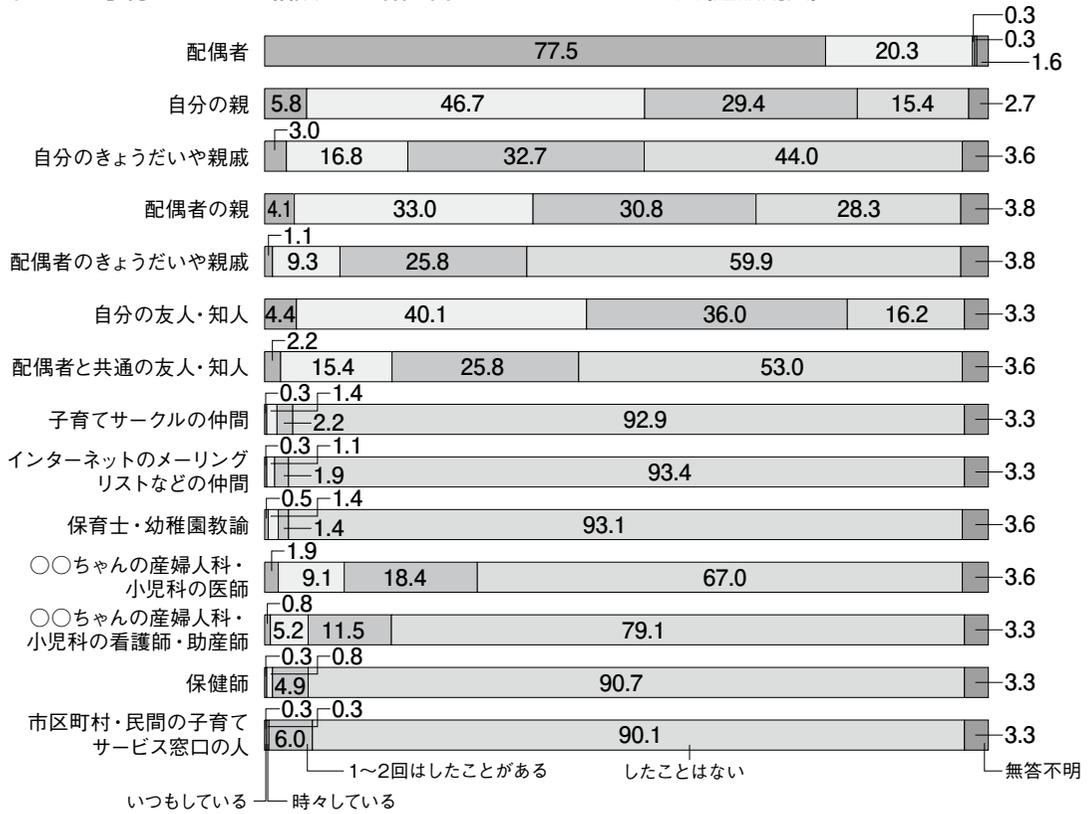


図6-4 子育てについて相談したり話し合ったりしたことがある人(0歳児期夫)

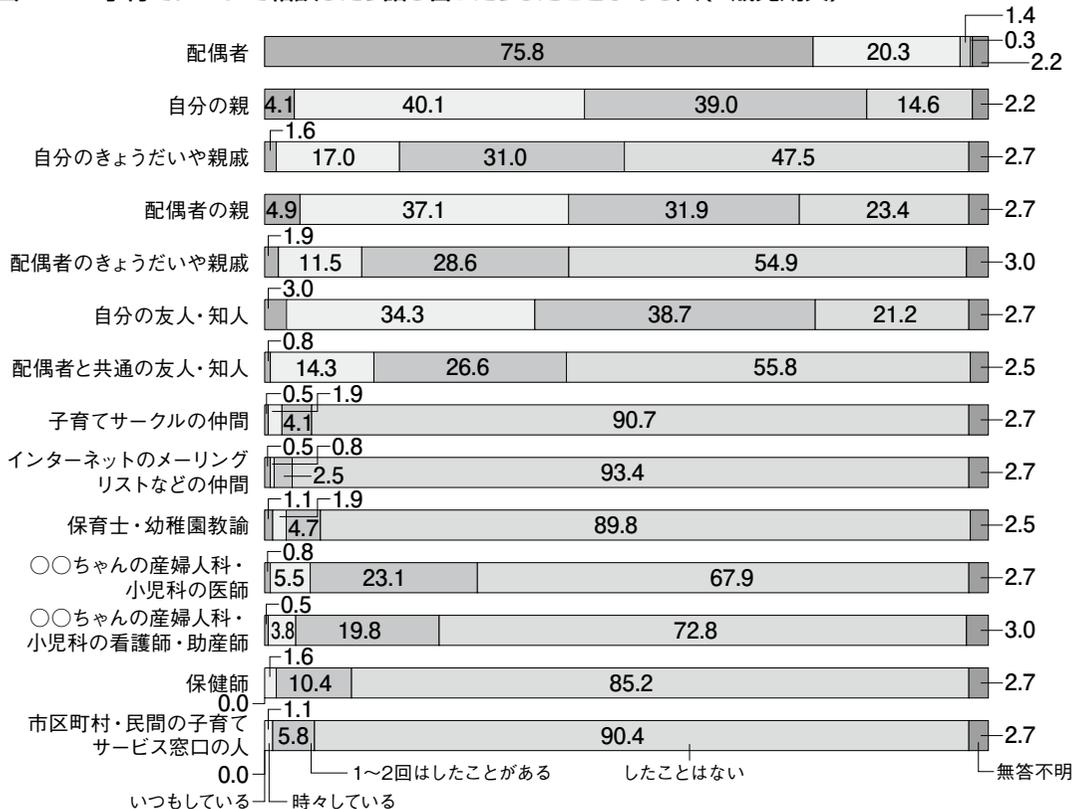


図6-5 相談相手の有無による子育て意識の違い(0歳児期妻)

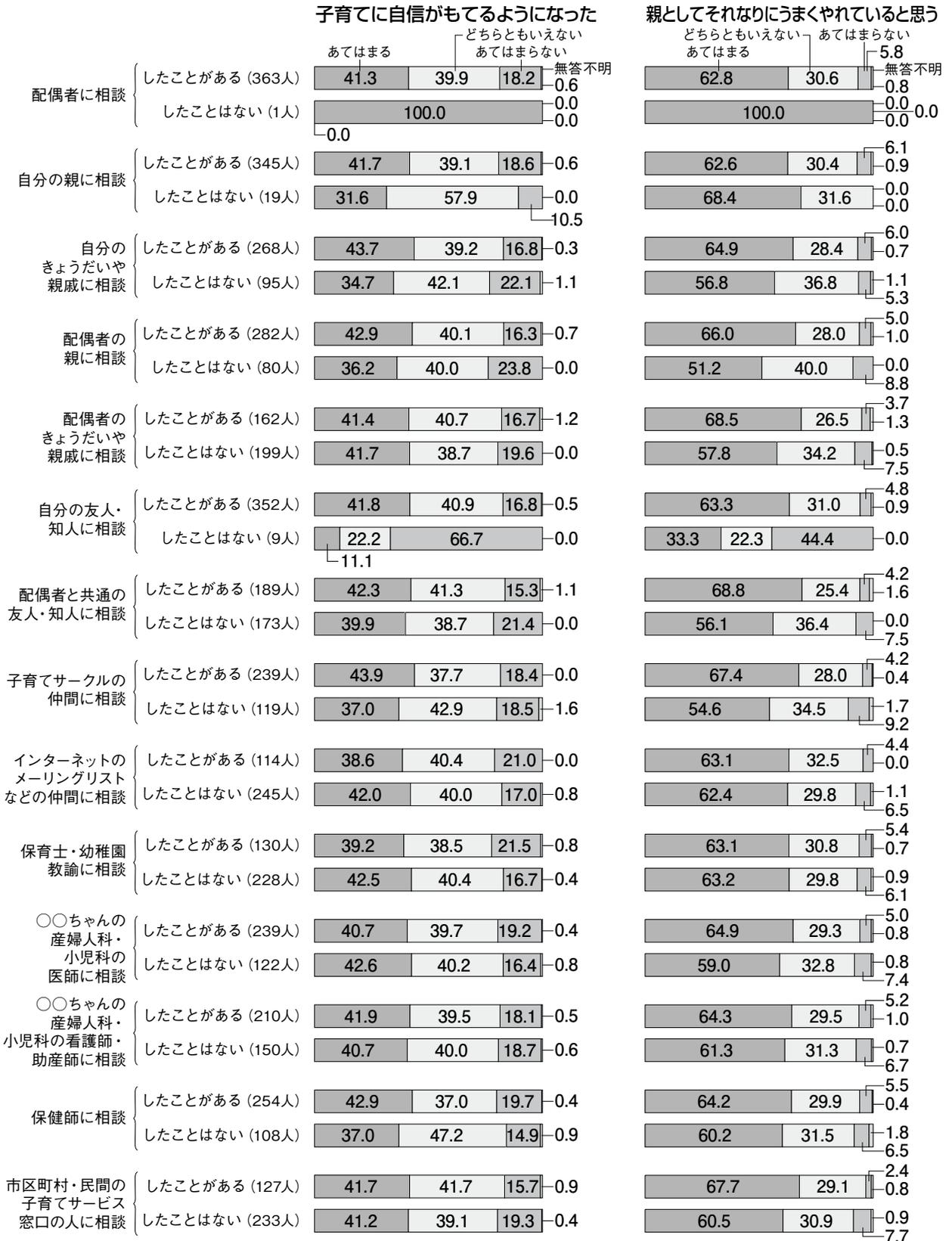
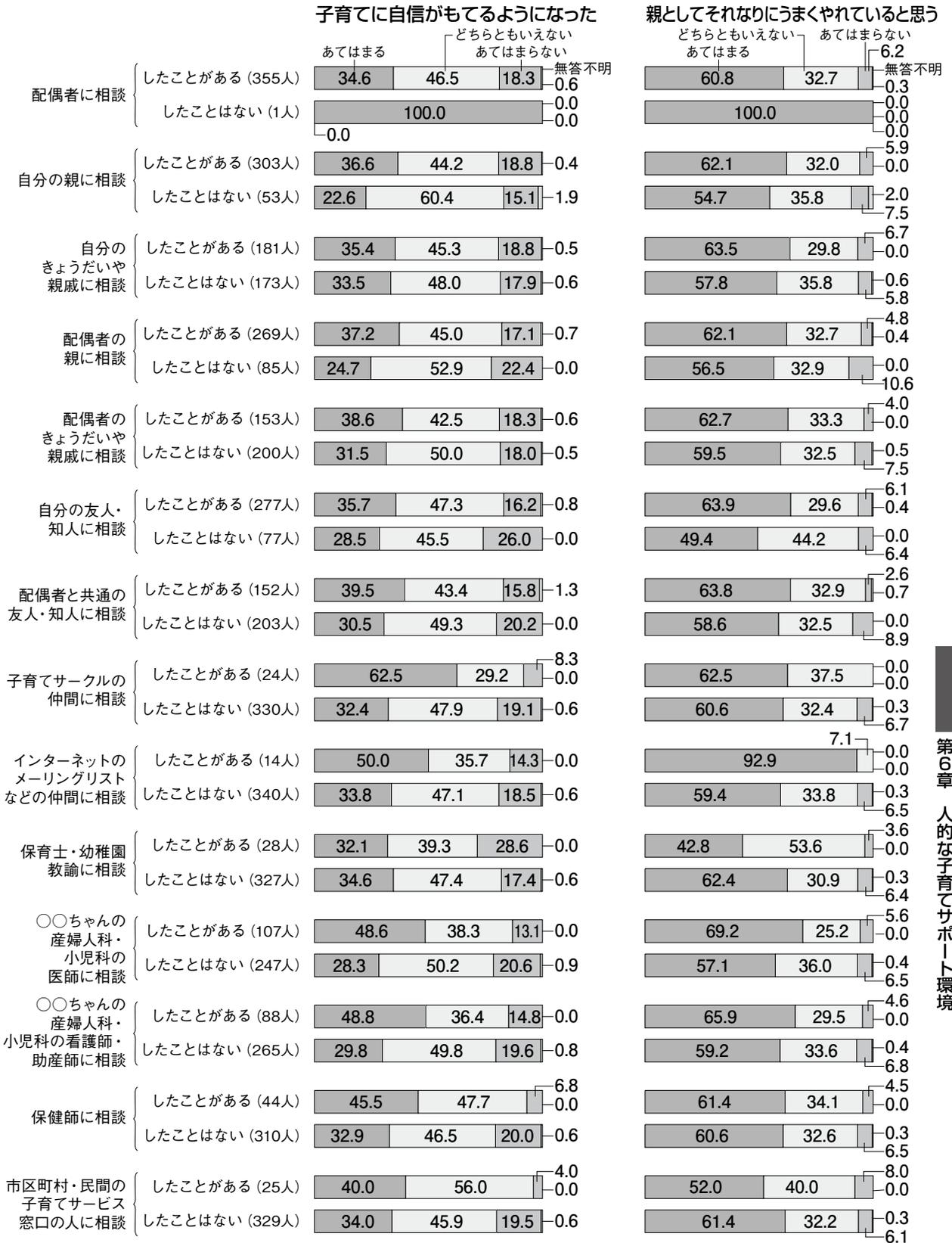


図6-6 相談相手の有無による子育て意識の違い(0歳児期夫)



人は、ない人に比べて「親としてそれなりにうまくやれていると思う」にあてはまる人が多かった（したことがある：92.9%、したことはない：59.4%）。図6-5、図6-6を見比べるとわかるように、妻に比べると、夫が子育てサークルやインターネットを通じて子育てについて相談できるような仲間をつくるケースは10分の1程度でしかない。しかし、こうした仲間に相談経験のある夫の多くが、肯定的な子育て意識を持っているという結果を考えれば、夫はもっと積極的に子育てに関わる集団に参加するべきであり、またそれが推奨されるべきである。さらに、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師」に相談したことがある人は、ない人に比べて「子育てに自信がもてるようになった」にあてはまる人が多く（したことがある：48.6%、したことはない：28.3%）、このほかにもこの子育て意識にあてはまる人が多かったのは、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」に相談したことがある人（したことがある：48.8%、したことはない：29.8%）、「保健師」に相談したことがある人（したことがある：45.5%、したことはない：32.9%）であった。夫がこうした専門家に相談するのは、子どもの診療や検診に付き添っていった場合が多いと思われる。夫が積極的に子育てに参加することが、子育てに重要な知識を得ることにつながり、子育てへの自信を深めていくのかもしれない。

■子育てサポートネットワークの分布

それでは、妊娠期から0歳児期にかけて、妻と夫それぞれの子育てに関する相談相手がどのように変化していくかを見てみよう。はじめに、変化を見やすくするために、14種類の相談相手を対人関係における親密さのレベルから4つのグループに分けることにした。第1グループは、とても親密な存在であり、子育てのパートナーである「配偶者（夫もしくは妻と表記）」単体で構成した。第2グループは、「自分の親」、「自分のきょうだいや親戚」、「配偶者の親」、「配偶者のきょうだいや親戚」の「親族」でまとめた。第3グループは、「自分の友人・知人」、「配偶者と共通の友人・知人」、「子育てサークルの仲間」、「インターネットのメーリングリストなどの仲間」の「友人・知人」でまとめた。第4グループは、「保育士・幼稚園教諭」、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師」、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」、「保健師」、「市区町村・民間の子育てサービス窓口の人」の「専門家」でまとめた。図6-7～10は、これらの4つのグループを組み合わせ、妻と夫それぞれの子育てサポートネットワークの分布状況を示している。ここで、妻と夫それぞれが、「親族」、「友人・知人」、「専門家」というグループを子育てネットワークの一部に持っているかどうかは、各グループを構成する相談相手の誰かに1回でも相談していれば該当することにした。例えば、「夫+親族」というネットワークの場合は、夫以外に、「自分の親」、「自分のきょうだいや親戚」、「配偶者の親」、「配偶者のきょうだいや親戚」の4対象の誰か1人に、少なくとも1回は相談していることが条件である。

図6-7～10を見ると、妊娠期と0歳児期を通じて、妻の子育てサポートネットワークの中では「夫+親族+友人・知人+専門家」型ネットワーク（妊娠期妻：81.6%、0歳児妻期：87.1%）が8割以上を占めており、「夫+親族+友人・知人」型ネットワーク（妊娠期妻：14.8%、0歳児妻期：9.9%）がそれに続いているのがわかる。夫で最も多かったのは「妻+親族+友人・知人」型ネットワーク（妊娠期夫：48.1%、0歳児期夫：45.1%）であり、次に多かったのは「妻+親族+友人・知人+専門家」型ネットワーク（妊娠期夫：29.7%、0歳児期

図6-7 子育てサポートネットワークの分布
(妊娠期妻)

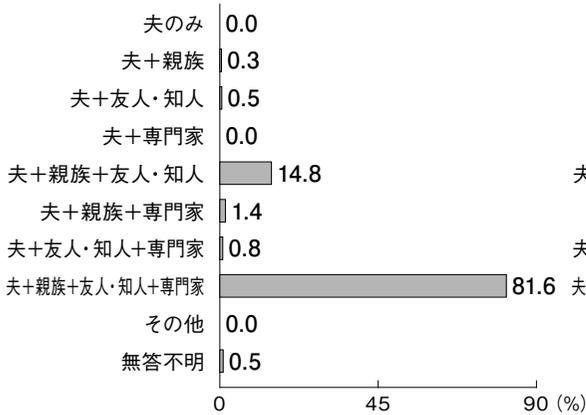
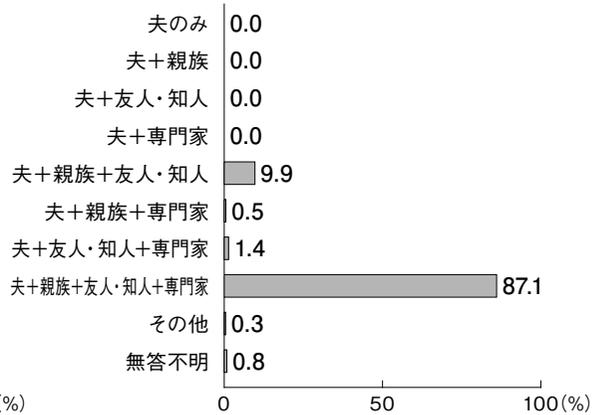
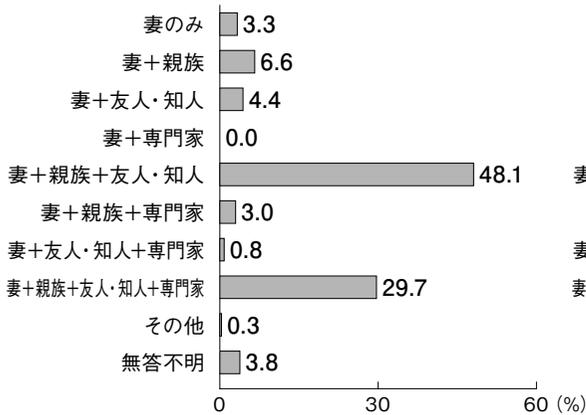


図6-8 子育てサポートネットワークの分布
(0歳児期妻)



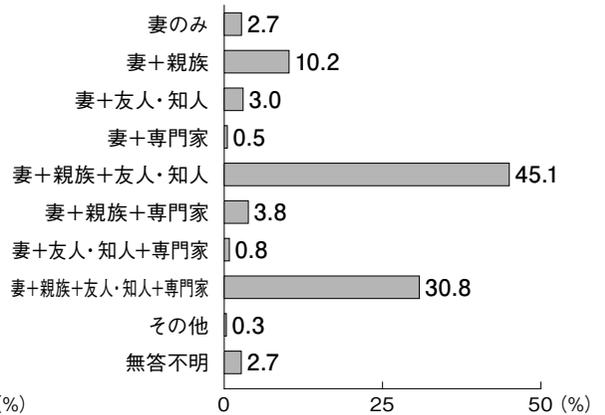
※「その他」は、「親族+友人・知人+専門家」のケースだった。

図6-9 子育てサポートネットワークの分布
(妊娠期夫)



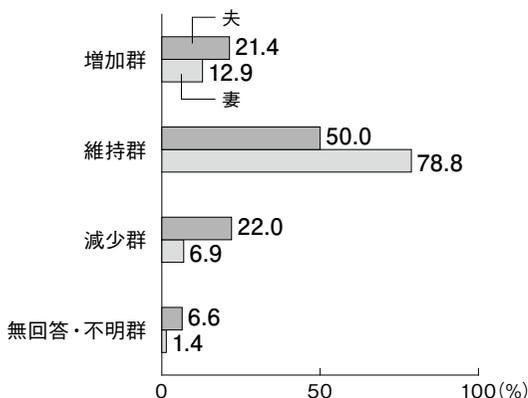
※「その他」は、「友人・知人のみ」のケースだった。

図6-10 子育てサポートネットワークの分布
(0歳児期夫)



※「その他」は、「友人・知人+専門家」のケースだった。

図6-11 妊娠期から0歳児期にかけての子育て
サポートネットワークの変化



夫：30.8%）であった。全体的な傾向として、ネットワークの規模が2グループ以下（夫のみ、夫+親族、夫+友人・知人、夫+専門家）であった妻の割合（妊娠期妻：0.8%、0歳児期妻：0.0%）はとても小さかった（夫は妊娠期：14.3%、0歳児期：16.4%）。

図6-11には、妊娠期から0歳児期にかけてのネットワーク規模の増減を示している。これを見ると、妻の約8割はネットワーク規模を維持しており、先ほどの図6-7～10の結果を合わせて考えれば、そのほとんどが最大規模（つまり4グループ）のネットワークを有していると言えるだろう。しかし、夫に関しては、ネットワークの規模が増加する人（21.4%）もいれば減少する人（22.0%）も同程度存在し、可変性が高いことがわかった。

■子育てサポートネットワークの変化と子育て意識との関連

本節の最後に、子育てサポートネットワークの変化パターンと、子育て意識との関連について検討した結果を紹介したい。

図6-14～21は、0歳児期の妻と夫それぞれについて、ネットワークの変化パターンごとに子育て意識の回答分布をまとめたものである。まず、妻に関しては、全体的な傾向として、維持群が増加群とほぼ同じかそれ以上に子育て意識をより肯定的に捉えているという特徴が見られた。先述のように、妻の子育てサポートネットワークは、妊娠期から0歳児期にかけて最大規模のまま推移していると考えられ、それが維持群の肯定的な子育て意識の高さの背景にあると考えられる。一方、夫に関しては、増加群の子育て意識が最も高いという結果が認められた。具体的には、「子育てに自信がもてるようになった」では、増加群で「あてはまる」と回答した人が42.3%、維持群では36.8%、減少群では21.3%であった。また、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」についても、増加群で「あてはまる」と回答した人は73.1%、維持群では60.4%、減少群では52.5%であった。この2つの子育て意識は、図6-6に示した結果で、「子育てサークルの仲間」、「インターネットのメーリングリストなどの仲間」、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の医師」、「〇〇ちゃんの産婦人科・小児科の看護師・助産師」、「保健師」に相談したことがある人ほどあてはまる内容であったことから、夫のネットワークの増加が肯定的な子育て意識にかかわるのは、子育てとの関連が深い仲間や専門家がサポートネットワークに含まれたからであると予想できよう。

子育てサポートネットワークの変化による子育て意識の違い

図6-14 子供を育てることに充実感を味わっている(0歳児期妻)

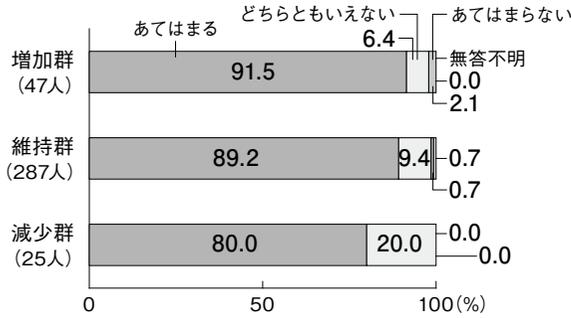


図6-15 子供を育てることに充実感を味わっている(0歳児期夫)

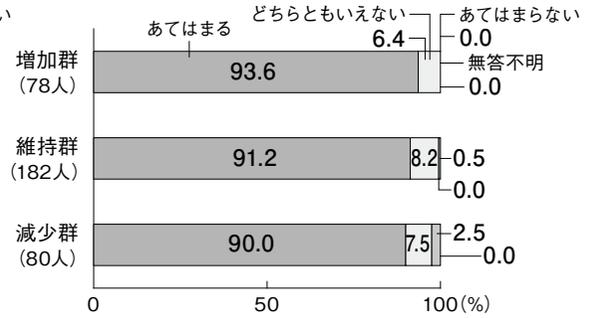


図6-16 子育てに自信がもてるようになった(0歳児期妻)



図6-17 子育てに自信がもてるようになった(0歳児期夫)



図6-18 子育てが楽しいと心から思う(0歳児期妻)

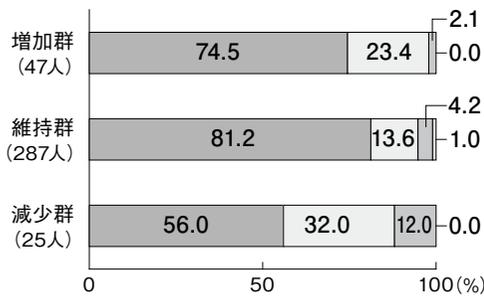


図6-19 子育てが楽しいと心から思う(0歳児期夫)

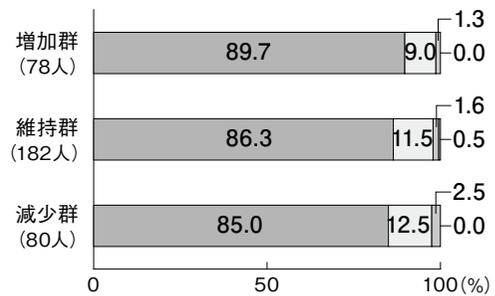


図6-20 親としてそれなりにうまくやれていると思う(0歳児期妻)

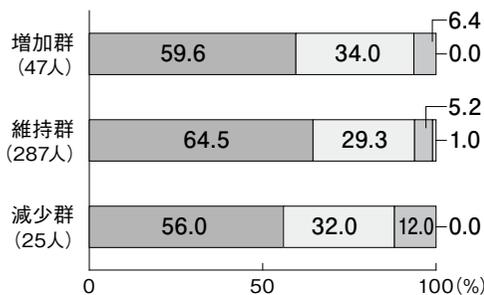


図6-21 親としてそれなりにうまくやれていると思う(0歳児期夫)

